

脚光浴びるか デザインベンチャー3社、海外進出 「和」の潜在力

製品力はあるが売力が足りない—そんな「職人気質」な日本のデザインベンチャーが、8-12日に開かれたドイツの国際見本市「アンビエンテ」に出演した。経済産業省の生活関連産業育成事業「ソーソーコム」の一環で、日本の文化やライフスタイルを形にした日用品を、世界に向けて売り込む取り組みだ。今回、初挑戦した3社を紹介する。

厚さ1ミリ、幅1センチのテープ状に加工されたブナ材をコイル状に巻いて食器などを作り上げる「BUNAKO(ブナコ)」。ブナコ漆器製造(弘前市)の独自ブランドだ。

同社は1964年からテーブルウェアの製造を始め、66年にグッドデザイン商品に選定、78年に日本で初めて開かれた「日本クラフトコンペ・京都」でグランプリ受賞など商品に対する評価は高かった。しかし、販路を百貨店に絞ったため売り上げは年々減少。「このままでは市場が小さくなる一方」(倉田昌直社長)と約6年前から販路拡大に向けインテリア分野に進出した。

■欧米から予想以上の反響

手掛けたのはゴミ箱やスツール、照明器具などだ。「特に照明はデザイン性の高い海外からの輸入品とも伍(ご)していけるとの評価を受けた」(同)。都心の有名なインテリアショップやセレクトショップへと販路が広がり、今では百貨店以外の比率が4分の3を占めるまでになったという。

昨年、国の地域資源活用促進法の認定事業の第1期にも選ばれた。同社は行政の後押しを受けつつ、今後4年かけて国内外へ向けた展開に取り組む。「海外進出にいいタイミング。ソーソーコムを足がかりにしたい」(同)

同じく海外展開に挑むのが京都市の和傘製造販売の日吉屋。数百年の歴史を持つ和傘の製造技術を用いた照明器具「古都里(ことり)」を照明デザイナーの長根寛氏らと開発、昨年2月から販売を始めた。かさのように開閉で

傘・絞り…照明に伝統の技



傘の絞り技術で「写真」を開いた日吉屋「古都里」

きる構造で、和紙と竹の骨組みが「和」の趣を演出する。独創性の高さが認められ07年グッドデザイン賞中小企業庁長官特別賞を受賞した。

「細々とやっていた会社の新しい挑戦」と5代目の西堀耕太郎氏。実は、アンビエンテの前、1月にフランスで開かれた見本市「メゾン・エ・オブジェ」にもジャパンブランドとして出展したが、予想以上の反響があったと言う。「欧州のインテリア会社やデザイナーからオファーがあったほか、ニューヨークのミュージアムショップからも声がかかった」。

■量産OK、国際特許も申請

一般的に、優れた製品を作っても、いざ発注が来た際の量産体制が作れていないことが日本のデザインベンチャーの弱みとされる。だが、西堀氏は「古都里は量産化も視野に開発したから問題ない」と説明する。独自の木型を開

発したため、均一な製品が2時間半で1個のペースで作れるのだという。出展でコピーされることも想定、国際特許も申請中だ。

テキスタイルでは既に海外取引も活発だが、日用品分野では初挑戦のスズサン(名古屋市)。同社は日本の伝統技術である有松鳴海絞の製造販売を手掛ける。92年に日本で国際絞り会議が開かれたのを機に、同社代表の村瀬裕氏は海外の産地との情報交換などを目的に「ワールド絞りネットワーク」を設立。事務局長を務め、イタリアや米国の見本市に絞りのテキスタイルを出展した。

今回はほこりを寄せ付けぬ光触媒加工を施したペンダントランプ「SHIBORI光触媒ペンダントランプ」を出した。06年に、デザインコンサルタントの高田公平氏の指図を受けて製作。グッドデザイン賞の中小企業庁長官特別賞を受賞したもの。村瀬氏は照明器具としての販路拡大にはこだわらない。「電気容量の問題もあり、海外向け商品には難しい面もある。布だけを供給して先方で作ってもらう方法もある」。

見本市での各社のアピールは、取引成立という成果に結びつくか。

(羽田洋子)



ブナコ漆器製造「BUNAKO」

スズサン「SHIBORI」

▶「華やぐころ 大正昭和のおでかけ着物」

4月6日まで、神戸市の神戸ファッション美術館で。大正・昭和初期の和装を展示する。自由闊達(かつたつ)な時代の空気を受け、色鮮やかで大胆な柄が当時の着物の特徴。幾何学模様や絵画模様など西洋文化の流れを受けたデザインなど、現在でも新鮮にうつる作品が並ぶ。同時期の女学生の学校生活での装いも映像と写真で紹介する。午前10時-午後6時。水曜日は休館。入館料は一般 500円、小中高生と65歳以上 250円。着物で来た人は無料。

■テーパード(tapered)

「次第に細くなった」という意味で、太もも部分はややゆとりがありながら足首に向かって細くなった形のパンツを「テーパードパンツ」と呼ぶ。今春夏の婦人服で要チェックアイテムのひとつとして注目を集めている。

レギンスの流行などでボトムをスリムに決めるス

デザイン の扉

タイルがここ数年主流だったが、飽きられ始めており、徐々に形に変化が出てきた。ももからまた下にかけて、テーパードパンツより太い乗馬服風「ジョドパーズパンツ」、大胆にボリュームをとった「サルエルパンツ」といった変形タイプ。逆に、すそをフレアにした1970年代調のフレアパンツも登場するなど、パンツのバリエーションも広がっている。

(ライター 佐藤俊郎)

第37回店舗総合見本市

JAPAN SHOP 2008

商空間デザインの現在と未来を知る4日間

